

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670400013
法人名	社会福祉法人 双葉会
事業所名	双葉会高齢者グループホーム
所在地	徳島県阿南市見能林町南林260-15 (電話) 0884-22-2913

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 19 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤:5人、非常勤1人、常勤換算:5.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	無	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 15 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.88 歳	最低 75 歳	最高	87 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原田医院 土肥歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所は自然豊かな環境にあり、敷地には季節ごとの果物が実る木々や花壇、畑があり利用者が自然を楽しみながら散歩できるようになっている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった「同業者との交流を通じた向上」については改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表者はじめ全職員が評価の意義を理解し、自己評価、外部評価の結果に対するサービスの改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員などで構成されている。会議では感染症予防の取り組みや外部評価結果、今後の予定等について報告したり、地域の方に認知症やその支援方法、グループホームの機能・役割などを説明している。会議録は保存し、職員の確認印・サインもある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、家族に来訪してもらい「鳩の便り」と併せて利用者個別の健康状態などについての近況を報告するとともに、相談事や不安解消の言葉かけをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの行事を通じて地域住民と交流したり、小学生の来訪や近隣の方からの野菜の差し入れなどがある。また、職員が小学校へ出かけて高齢者やグループホームを紹介するビデオを上映するなど、積極的な交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、一人ひとりの利用者を尊重した支援を行うという事業所独自の理念をつくっている。理念は玄関にわかりやすく掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の心得を記載した冊子によって理念を共有し、日々の心構えを常に確認しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事を通じて地域住民と交流したり、小学生の来訪や近隣の方からの野菜の差し入れなどがある。また、職員が小学校へ出かけて高齢者やグループホームを紹介するビデオを上映するなど、積極的な交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者はじめ全職員が評価の意義を理解し、自己評価、外部評価の結果に対するサービスの改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員などで構成されている。会議では感染症予防の取り組みや外部評価結果、今後の予定等について報告したり、地域の方に認知症やその支援方法、グループホームの機能・役割などを説明している。会議録は保存し、職員の確認印・サインもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	職員は市の窓口へ出向いてわからない事や運営に関する問い合わせ・相談・意見交換を行うなどサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、家族に来訪してもらい「鳩の便り」と併せて利用者個別の健康状態などについての近況を報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱の設置や家族の来訪時に言葉かけて意見や希望の把握に努めている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は利用者には不安を与えないよう配慮し、最小限にとどめる努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	年間計画を立て、法人内外の研修に積極的に参加している。研修後は報告書を作成して回覧し、職員の確認印・サインがある。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者との交流は行っていない。	○	地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者や家族、運営者、職員など関係者間で話し合い、本人が安心し、納得した上でサービスを開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話などの話題豊富な利用者が入居されていて楽しく和やかな雰囲気があり、共に支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や習慣などを参考にして、日常生活や会話の中から一人ひとりの思いや暮らし方についての希望を把握している。把握が困難な場合は、家族などと話し合い利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のミーティングや毎月のカンファレンス、担当者会議で問題点や課題を話し合い、家族の意見・希望を取り入れ、チーム全体で利用者本位の介護計画を作成している。介護計画には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間及び本人の状態や希望、家族の要望に応じて随時見直し、現状に即した内容となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、利用者の状態や家族の要望に応じて通院支援などを行っている。また利用者の外出や買い物の要望にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望にそったかかりつけ医への受診と週1回の協力医の訪問診療を支援している。受診時にはその都度、医師と情報交換を行うなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者や家族の希望を聞き、かかりつけ医などと話し合い、関係者間で重度化した場合や終末期に向けた方針を共有している。また、利用者の状態に変化があった場合にはその都度、現状に即した方針を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを作成し、職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシー保護に努め、本人を尊重した優しい言葉かけを行っている。また記録等は、個人情報の取り扱い規定にそった取り扱いを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースにあった生活が送れるよう、希望を聞いて散歩に出かけるなどの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣住民からいただいたり、利用者と職員が畑で収穫した野菜を取り入れ、準備から後片付けまで一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミング、身体状況等に合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力や生活歴を活かし、食事の準備から後片付けまでの役割を分担するなどしている。また体調を見ながら買い物に出かけたり、季節に応じたドライブなどを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や気候などに配慮しながら、散歩や買い物、外気浴、庭での食事会など利用者の希望にそった外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。職員は利用者一人ひとりを見守り、安全な生活が送れるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、災害時マニュアルにそった訓練を行っている。地域住民や警察署との連携もあり、災害時の連絡体制が整備されている。また災害時には地域住民の避難場所としても事業所を利用してもらえるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量は毎回記録されている。また食事内容は法人の栄養士の指導のもと、一人ひとりの状態や身体機能などに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には書道や絵画など利用者や職員の作品が掲示されている。掃除も行き届いており、生け花を飾るなど生活感や季節感が感じられ、居心地よく過ごせる共用空間づくりが行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた筆筒が置かれたり、好みの写真を飾るなど利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		